

# 生きる力を身につける

東大阪市立太平寺中学校 中田遼太郎

## 1. はじめに

本校は生徒数164名、学級数7学級、教職員数23名の東大阪市立中学校の中で最小規模の中学校である。支援学級は昨年度に引き続き、1学級(知的障がい)、担任1人、生徒1人という状況である。少人数であることの大きな利点として、「個に応じた学習ができること」が挙げられる。

本論文は、この利点を生かし、子どもや保護者の思いである「生きる力の習得」をめざした中学校入学1年目の活動の記録である。

## 2. 生徒の実態

自閉症スペクトラム・発達障がい第2種障がい者の療育手帳をもっている。小学校の時と同じように国語と数学の授業を週8コマ支援学級で行い、それ以外の授業は通常の学級で行っている。

小学校の時にペルテス病を発症して入院し、手術を受けている。手術後に右足が左足よりも少し短くなり、普段使っている運動靴は、右足だけ底を高くしたものを履き、生活している。現在は足を少し引きずりながら、自分で歩き、登校しているが、今後の成長に影響を与えないように大きな負担がかかる運動は制限している。体育の授業については入り込み支援を行い、種目によっては見学、または、支援学級での個別学習を受けている。入学して4か月が経った頃、通常の学級で学力的な遅れが目立つようになってきたが、保護者と相談して、通常の学級の生徒とのつながりを大事にし、1年生の間はこのままの体制でいくことに決めた。単元によって1人で行うことが困難な授業は、教科担当者から連絡を受け、スクールヘルパーとともに入り込み、授業のサポートを行っている。通常の学級の生徒との関係は良好で、周りの生徒が配慮し、気遣ってくれている場面をよく見かける。

## 3. 保護者の思い

保護者は本校に進学を決める前、生徒に合った学習や支援を受けるため支援学校の進学も考えており、支援学校の見学にも行った。最終的に本校への進学を決定したのは、本校の授業見学をされた際に、個に寄り添った支援教育が受けられることと、支援学級が学校の中で孤立せず、通常の学級と関係を密にしているところに安心されたためだと思われる。

入学前、保護者に学校へ来てもらい「生きる力を身につけてほしい」との思いを聞かせていただいた。この生きる力とは、実生活に必要な学力と周りの人たちとのコミュニケー

ション力であり、社会生活の中で生きていく力のことである。

通常の学級の生徒たちとの関係は小学校時代に築けており、保護者、本人とも、中学校でさらにその関係を深めていきたいと考えている。

その考えのもと、通常の学級の生徒たちとの関係の中でコミュニケーション力を身につけ、支援学級の授業の中で、社会生活に必要な学力を身につけていくという方針を決めた。

#### 4. 生きる力とは

4月当初、どれぐらいの学力や理解力があるかを小学校の時に使っていた教材を使って確かめ、中学校での学習内容を考えていった。小学校時の支援学級担任との引継ぎの中で、新しいことを覚えて定着させることが難しいこと、定着させるためには、繰り返し反復学習を行うことが必要だということを引き継いだ。中学校の支援学級で授業を行うのは一週間で8コマという限られた時間しかないため、課題を明確にし、集中的に取り組み習得する学習をしていく必要があると感じた。保護者との相談や、支援・人権教育推進委員会(管理職、通常の学級担任、支援学級担任、人権担当の先生方)の中での話し合いを通して、1年生の間で身につけたい生きる力の具体的な学習内容を以下の2点に決定した。

- (1) 時間(スケジュールの確認、時計の読み方・時間の計算)
- (2) お金(数え方、使い方)

#### 5. 学習方法

- (1) 時間(スケジュールの確認、時計の読み方、時間の計算)

- (a) スケジュールの確認

登下校時の足への負担を減らすために、支援学級にすべての教科書を置くようにしている。登校後、支援学級に寄って、一日のスケジュールを確認し、今日必要な教科書を自分でカバンに入れるようにしている。その作業をスムーズに行うために、教科書を教科別に置ける棚(図1)と、すぐに時間割が確認できるような大きな時間割表(図2)を作った。



(図1)教科書を教科別に置ける棚

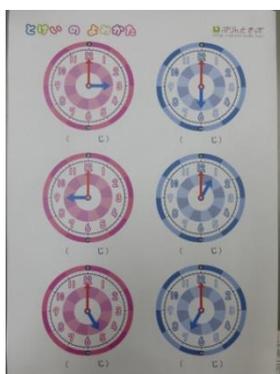


(図2)大きな時間割表

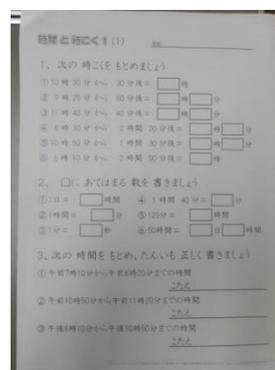
今日使う教科書を自分の手でカバンに入れることで、今日一日にどの教科があるのかがわかり、時間割表を使って教科の順番を確認することで一日の流れを把握している。初めは曜日ごとの授業や、どの棚にどの教科書が入っているかを確認しながら作業を行っていたが、半年以上続けている現在、話をしながらでも間違いなく一日の準備を行うことができている。

## (b)時計の読み方・時間の計算

支援学級の授業や宿題の中で、時計や時間に関するプリント(図3ぷりんときっず <http://print-kids.net/>、図4ちびむすドリル <http://happyilac.net/syogaku.htm/>、インターネットからダウンロードしたもの等)を毎日解かせるようにしている。



(図3)ぷりんときっず『とけいのよみかた』



(図4)ちびむすドリル『時間と時刻の問題』

入学時から時計を読むことはできたが、「〇〇時〇〇分の〇〇分後、〇〇分前は？」という問いには答えることができなかった。図4の問題を解くことも難しかったため、はじめはおもちゃの時計や iPad の時計のアプリを使いながら解いていた。何も使わずにプリントの問題を解けるようになってきたが、会話をしている中で、プリントでの学習と実生活とを関連づけて考えることができていることがわかった。そこで、関わっている先生や保護者に頼み、時間に関する質問(「昨日何時に寝たか」「今日起きてから何時間経っているか」等)を多く問いかけてもらうことにした。このことによって時間が身近にあるものだとしたこと、授業での勉強が自分の生活に関係しているということを理解し始めているように感じた。

## (2) お金の数え方・使い方

お金の数え方・使い方を定着させることは、小学校の高学年から取り組んでいたが、卒業までに定着できなかった課題である。また、保護者が中学校の生活で身につけてほしいと強く思っていることでもある。さらに、小学校の支援学級担任や保護者の話を聞いて、次のような課題があることがわかった。

- ・金額の大小は理解しているが、どのくらいの価値があるかがわからない。
- ・財布の中のお金を数えるスピードが遅い。

このために買い物をするときは、財布の中に入っている一番大きなお札を出すか、お札がなければ財布の中の小銭をすべてレジに出して店員にとってもらおうという支払い方法をとっている。

そこで、いろいろな物の値段を知ることから始め、様々な種類のカatalogやチラシを見たり、そのチラシを値段とともにさみで切り取り、種類別に分けていった。文房具、電化製品、お菓子、おもちゃなどの大まかな値段を知ったところで、自分で商品名と裏に値段を書いた商品カード(図5)とおもちゃのお金(図6)で買い物ごっこを繰り返し行い、買い物をすることのお金の使い方の流れを学習している。



(図5)商品カード



(図6)おもちゃのお金

## 6. 今後に向けて

### (1) 時間(スケジュールの確認、時計の読み方・時間の計算)

これからもスケジュールの確認や時間に関するプリントに毎日取り組んでいく。時間を身近に感じるために腕時計をつけたり、授業を時間で区切り、確認させていくことで、時間の感覚を身につけさせていきたい。

### (2) お金(数え方、使い方)

支援学級で行う調理実習の買い物や家でのお使い等で、実際にお店でお金を使う機会を作り、経験を積みさせていきたい。

## 7. おわりに

保護者から「生きる力」を身につけてほしいとの思いを聞かせていただき、何から学習していけばよいかと悩んだが、目標を決めて、ひとつひとつ課題に取り組み続けることで、できることが増えていき、学習していくべきことが見つかっていくことがわかった。これからも、少人数である利点を生かし、生徒と教員、保護者と教員、生徒同士の信頼関係をもとに、社会を生きていく力が少しでも定着できるように毎日支援していきたい。